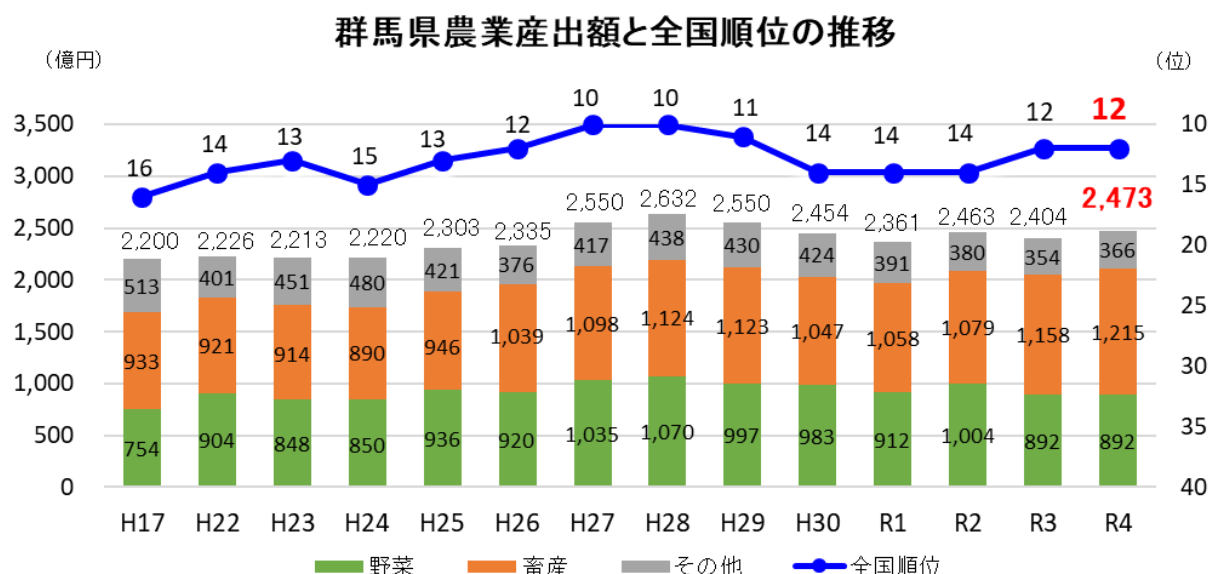


4. 令和5年度実績の概要

農畜産物の生産性向上や高付加価値化に向けた各種施策を総合的に進めたことに、気候変動による異常気象や国際情勢の影響による生産コスト上昇に伴う農産物価格の上昇も重なり、群馬県の農業産出額(令和4年)は前年より69億円増加し、2,473億円となりました。また、都道府県別順位は、前年度に引き続き12位となりました。

将来にわたって豊かな食生活を支える本県農業・農村が環境と調和しながら持続的に発展していくため、令和3年度からスタートした「群馬県農業農村振興計画2021-2025」に基づき、基本目標である「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」の達成に向けて、農業の持続的な発展を促進する「産業政策」と、農村の持続的な発展を促進する「地域政策」を車の両輪とした各種施策を推進しました。



< 施策の達成状況 >

基本施策19項目の達成状況は以下のとおりとなりました。

A : 8 項目 B : 10 項目 C : 1 項目 D : 0 項目

判定	内容 (達成状況)
A	計画どおり達成 (または概ね達成) している。(100%≦達成状況)
B	達成ではないが、順調に推進している。引き続き、達成に向けて努力する。 (80%≦達成状況<100%)
C	達成に向け努力が必要。必要に応じて施策の展開内容等を再点検し、見直しを検討する。(50%≦達成状況<80%)
D	達成に向け大きく努力が必要。かつ、施策の展開内容等を再点検し、必要に応じて抜本的に見直す。(達成状況<50%) ※未実施も含む

I 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

新規就農者や担い手の確保に向けて、就農イベントへの出展を通じた就農希望者に対する情報発信や、農業体験や研修機会の提供、制度資金や補助事業を活用した機械導入・施設整備等の補助を行いました。また、新たな担い手を、地域ぐるみで受け入れる体制の整備を促進しました。

地域農業を支える力強い経営体の育成に向けて、様々な分野のスペシャリストによる経営相談や課題解決のための農業経営セミナーを開催するとともに、法人化に向けた支援を行い、農業経営の基盤強化を図りました。また、農業経営体とスタートアップ企業とのマッチングイベントや課題解決に向けた実証事業に行い、双方の課題解決と育成に取り組みました。

担い手の多様なニーズに対応した農地の区画整理などの生産基盤整備や、農地中間管理事業等を活用し、担い手への効率的な農地集積・集約化と遊休農地の発生抑制を図りました。



就農相談会



スタートアップの有する先端技術の実証
(微生物や有機肥料を付加した『高機能バイオ炭』)

II 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

野菜振興では、生産者が行う機械導入や施設整備等に係る経費を補助することで、生産規模拡大や生産性向上を推進しました。また、園芸施設における燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図るとともに、施設園芸省エネ転換緊急対策事業により、省エネ設備等の導入経費を補助しました。

花き振興では、「ぐんま花フェス」として高校生フラワーアレンジメントコンテストや社会人向けフラワーアレンジメント教室などを開催するとともに、首都圏の小売店舗でのイベントや市場展示を通じて、県内外に県産花きの魅力や品質の高さをPRしました。

果樹振興では、ウェブ版果樹園マップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」での観光果樹園に関する情報発信を行いました。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のデビューイベント開催、SNSを活用した「紅鶴」応援プロジェクトの実施により、認知度向上を図りました。さらに、果樹経営支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植に係る経費を補助することで収益力向上を図りました。

水田振興では、高温耐性に優れた水稻品種や中山間地域での高品質米の作付けを推進するとともに、高収益作物等の作付拡大に向け、ぐんま型「水田フル活用」を推進しました。

畜産振興では、乳用牛・肉用牛の改良に向けてゲノミック評価活用を進めました。また、乳用育成牛の増産に向けて、浅間家畜育成牧場の整備を行いました。さらに、県産飼料拡大・未利用資源活用対策支援事業を活用し、飼料生産組織への機械導入を補助するとともに、子実トウモロコシ等、高栄養・高収量飼料作物を中心とした飼料増産を推進しました。一方、家畜伝染性疾病の発生予防と蔓延防止対策として、飼養衛生管理の徹底・強化、野生イノシシの捕獲強化・経口ワクチン散布、子豚への豚熱ワクチンの適期接種等の豚熱発生予防対策や、飼養衛生管理基準の遵守指導及び消毒薬の配布等の高病原性鳥インフルエンザ発生予防対策を行いました。



「ぐんま花フェス」フラワーアレンジメント教室



県育成リンゴ品種「紅鶴」デビューイベント

Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

G-アナライズ&PRチームの分析により、県育成ブルーベリー3品種（おおつぶ星、あまつぶ星、はやばや星）の強みや特長を見出しました。また、ナスの分析結果を踏まえ、消費者庁に機能性表示食品としての届出を行いました。

輸出促進については、台湾や香港を対象としたバイヤー招へい商談会や青果物及び農産物加工品の現地PR販売を行い、商談機会の創出及び輸出拡大を図りました。特に、台湾においては新たに白菜の輸出に取り組み、キャベツ等の重量野菜の輸出に道筋をつけることができました。また、UAE・ドバイのレストランにおいて、こんにやくを使用したメニュー開発や試食提供を行い、健康志向層を中心に高評価を得たことで、商流構築のきっかけをつくることができました。

食育関係では、郷土料理等の地域伝統に根ざした豊かな食文化への理解促進を図るとともに、「学校給食ぐんまの日(10月24日)」には畑と近隣の小学校10校の教室をリモートで結び、生産者と児童約450人をつなぐ食農教育を行いました。また、食品の安全確保への県民理解促進を図るため、対面に加え、オンラインや動画配信等、様々な手法によるリスクコミュニケーション事業を実施しました。



台湾での現地PR販売



リモート食農教育

IV 魅力あふれる農村の持続的な発展

蚕糸振興では、県産繭確保対策の実施や、県産シルクの需要拡大を図るとともに、「ぐんま養蚕学校」の開催を通じて、新規参入者の育成・確保に取り組みました。

水産振興では、県内漁協に電子遊漁券の導入を進め、利便性向上を図るとともに、PRイベントを通じた県産ニジマスの認知度向上を図りました。

きのこ振興では、新品目きのこの種苗登録申請を行うとともに、温泉旅館と連携し、レシピ開発に取り組みました。また、学校給食への食材提供や料理コンクールの開催など、県産きのこの消費拡大に取り組みました。

農村における防災・減災推進については、防災重点ため池の豪雨・地震に対する詳細調査、及び改修・補強を実施するとともに、現地パトロールや相談対応を通じて、ため池管理者に対して適切な管理手法を指導しました。

鳥獣被害対策については、地域ぐるみによる、「守る」・「捕る」・「知る」の総合的な対策を推進しました。また、GPSを利用したニホンジカの生息状況調査に基づく広域捕獲を長野県と連携して実施しました。さらに、豚熱の感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木の伐採等を行い、緩衝帯を整備しました。



「ぐんま養蚕学校」での現地実習



貯水池における耐震補強工事

V ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

都市との交流や農村への移住・定住促進のため、農泊実践者へのインタビューをウェブ公開するとともに、養蚕体験など、農村の特色を活かしたモニターツアーのプロモーション動画を製作・公開することで、農村への誘客促進を図りました。

農村地域の多面的機能の維持・発揮と農村集落機能の維持・強化のため、多面的機能支払交付金を活用し、農業者や地域住民等による組織が取り組む協働活動を支援することで、適正な農地・農業用施設の保全管理を推進しました。



養蚕体験プロモーション動画（tsulunos で公開中）

<https://tsulunos.jp/single.cgi?id=4053>



地域住民との連携による協働活動（泥上げ）